

夏目とも子

「遠州横須賀 後藤邸」 2023 インスタレーション

材料／トレーシングペーパー・色鉛筆・水彩絵具・養生用テープ

後藤邸の壁に残る色や傷や落書きの跡に  
日々考えている事象を重ねました。  
私の勝手な妄想です。  
後藤家の誰かが描いた落書きを写し取り  
それをなぞり削った図像と  
もっと以前に私が制作した図像には  
因果関係はないのにもかかわらず  
とても近い何かがあることに気が付きました。

私は建物の壁が好きで長く壁の作品を作っていますが  
後藤邸の壁も、私の家の壁も  
パネルの上で描く嘘の壁も  
果ては大昔の洞窟に残る跡形も  
細くても強い何かで繋がっているのだなと  
妄想を重ねながら制作しました。

今回大量に使用したトレーシングペーパーは  
選んだ理由の一つに、その頼りなさや硬質性がありました。  
和紙や画用紙のぬくもりに比べ、冷たくて存在感がうすい。  
そこに色鉛筆や水彩絵具の具で塗ったり描いたりを繰り返していると  
紙の事よりも色材について考えられる気がしたのです。  
色鉛筆に混じるタルクや、水彩絵具の粒粒の事を長い時間かけて考えていました。

故後藤夫妻が使われていた二本の杖は、作品のためにご提供下さいました。  
とても軽くて持ちやすそうで、氏名のシールが重ねて貼られている所に時間の流れを感じました。  
撫でて触っていると、私自身の老父母のことをよく考えました。  
とても健脚だった父は歩くことが辛くなって杖が必要となり  
その杖をいつも探している父と、自由に持ち出しては無くす母と。

今回の作品制作の機会を下さった後藤茂文さんに感謝致します。  
壁の蒼色の不思議な美しさ、壁の落書き（を消した跡）が創造の力をくれました。  
間を繋いでくださった関係者の方々、中でも深谷孝さんへ多くの感謝を。

2023年10月19日